

齊藤龍吉七十四歲

竹内

介

登場人物

江崎(えざき) 48歳

アポロクリーンサービスのベテラン社員。最近母親を亡くした。

葛西(かさい) 36歳

アポロクリーンサービスの社員。服飾雑貨のブランドに詳しい。

佐野(さの)

30歳 アポロクリーンサービスの社員。電気工事士の資格を持つ。

城戸(きど)

27歳 アポロクリーンサービスの新入社員。

アスバラ

28歳 お笑い芸人。食べていけないので頻繁にアポロクリーンサービスでバイトしている。

斎藤あけみ(さいとうあけみ)

34歳 斎藤龍吉の娘。龍吉が亡くなつたと知つて、久しぶりに生家を訪れる。

焼け焦げた木片が散らばっている部屋に、江崎が一人座っている。火事の焼け跡であるが、そこまで激しくは焼けていない。江崎の前にはススで汚れたちやぶ台がある。

江崎は持っている紙袋から酒と花を取り出すと、部屋のすみに供える。そして酒瓶をちやぶ台に置いてグラスに二杯酒を注ぎ、一つを花の横に、もう一つを手にして軽く口をつける。

江崎はさらにカバンから書類を出すとボールペンを持ちだして書き始めるが、すぐにその手は止まる。

葛西とアスパラが現われる。二人は清掃業者のユニフォームを着ている。

葛西 お父さん！また飲んでるの？

アバ 医者に言われてんだろ？飲みすぎるなって

江崎 いいんだよ

葛西 よくないわよ。体には気をつけてつていつも言つてるじゃない

江崎 金が目当てか？

葛西 何言つてんのよ。私達はお父さんの体を心配して：

江崎 ろくに連絡もしてこないくせに、よく言うな。用がないなら帰れ

アバ 用つて：俺は親父と話をしにきたんだよ

江崎 金がほしいんだろ！俺はお前らにやる金なんか持つてねえぞ

葛西 お父さん！いい加減にしてよ！しばらく会つてなくつても、私達は家族でしょ！

江崎 :

アバ いいよ。おい、帰るぞ

葛西 なんですよ？…お兄ちゃん、まさか本当にお金が目当てで来たの？

城戸 江崎さん！この…

城戸が段ボール箱を抱えて部屋に入つてくる。しかし状況の意味が分からず凍りつく。

アバ 金くらいしかこの親父に価値なんてないだろ？お前はこの家がほしいのか？ま、それならせいぜいこの人でなしの面倒を見るんだな！

葛西 最低！もう一度と会わないで！お父さんを傷つけないで

アバ こっちから願い下げだ！でもな、この家の半分は俺のもんだ。そのぶんは、ちゃんと現金で渡せよ

葛西 帰つて！もう来ないで！

江崎 義弘：

アバ なんだよ

江崎 わしは：お前に、そんなひどいことをしたのか：何があつても家族だと：だからわしはお前に：いや…お前はわしに：うーん。ごめん、違うな、こうじやない

江崎は突然素に戻る。アスパラと葛西も緊張を解き、休憩する。

城戸 あの…

アバ 城戸さん…ダメですよ…

城戸 （よくわからず）すみません

江崎 しんみりしすぎかな…子供たちが家から出てつて、親父は悲しかったのかな？葛西は、どう思う？

葛西 家に引きこもるよりは、出て行つたほうが健全ですけどね

江崎 一人立ちだよな…でも…息子は親父を恨んでる…

葛西 家庭内暴力とかあつたんですかね？

江崎 …頭がおかしい、つて息子は言つてたよな？

城戸 は、はい！

葛西 息子さんの逆恨みつて線も

江崎 どうした、城戸？

城戸 本棚の下の引き出しから色々と出てきて…メモ書きとか、表紙のない文庫本とか…どう整理しましよう?

江崎 水には濡れてない?

城戸 はい

江崎 じゃあ、俺がやるわ。おいといて

城戸 お願いします。あの、今、何やってらしたんですか?

葛西 亡くなつたお爺ちゃんがどんな人だったか、想像してたの。私達、勝手に触らせてもらつてるんだから、せめて思つてあげないとつてアバ調子に乗つてきたら、判断に困る物を、江崎さんがバツサバツサ処理してくれるんですよ。まるで亡くなつた人が乗り移つたみたいに佐野 儀式?

佐野が段ボール箱を抱えて入つてくる。

葛西 うん

佐野 またやつてんですか?自己満足。江崎さん、アルバムです。テレビの下に入つてました

江崎 確認するわ。おいといて

佐野 はい。電化製品、とりあえず全部動きますけど、値段のつくものは…これは動くかな

佐野は部屋のすみにあつたラジカセを調べる。

江崎 ごくろうさん

佐野 (ラジカセを調べながら)お風呂の前の部屋のクーラー、一番綺麗ですけど外しときます?

江崎 クーラーはな:金になるかわかんないけど。ま、いちおう外しといて

佐野 はい。思い出の確認より、電化製品のほうが重要でしょ。ちょっとは会社に貢献することも考えないと、出世できませんよ
江崎 :貢献、か:わしはお前の人生に何か貢献できた:いや、堅苦しいな。近所付き合いもない、息子とも疎遠、一人暮らしのたつじい:

佐野 だめだ、こりゃ

江崎 何かが違うんだ。何か勘違いしてる。そんな、寂しい部屋じゃないんだ、ここは。たつじいはここで…佐野、タバコ

佐野 はい

城戸 タバコ？

佐野はココアシガレットを江崎に差し出す。

江崎はそれを本物のタバコのように吸う。

佐野もココアシガレットをかじる。

江崎 たつじいはこの部屋でタバコを吸っていた。もちろん本物のな。そして酒をしこたまのんで、寝て、タバコの火が燃え広がって、そのまま

亡くなつた：

佐野 そのあたりですかね？寝てたの

城戸 え？（身を震わせる）

江崎 そうかもな。火は早くに消し止められたけど、一酸化炭素中毒つてやつかな。煙にまかれたんだ。最後の瞬間、目を覚ましたのか、寝たま

まだつたのか…どつちだ、たつじい？

佐野 （ラジカセ）これ、熱でやられてますね。カセットも溶けてるな…。捨てます？

江崎 いや、おいといて

佐野 はい。全焼してたら、楽だったのに…じゃ、クーラー外してきます（出ていく）

江崎 …あいつはほんとにバチ当たりだな。お前らも仕事しろよ

葛西 江崎さんに付き合つてたんでしょ

アバ 次どこいきます？服やります？

葛西 そうね

江崎 城戸はここに残れ。指導を任されてるんだ

城戸 わかりました

アバ 江崎さんは始末書ですか？

江崎 ああ。見つかったとはいえ、一時はなくしてしまったんだ。俺の管理不足でお客様に不信感を与えてしまいましたって書くよ
アバ でも不思議ですよね、金庫にちゃんと入れてたのに…

アスパラは部屋を出て行く。

江崎 葛西、今度は何もなくすなよ

葛西 (真剣な顔になつて) わかつてます(部屋を出る)

江崎 こないだの現場でな、見つかったはずの通帳が親族に渡すときになかつたんだ。リストに通帳つてあるのに、ないじやねえかつて呼び出され
て怒鳴りつけられて…。もう一度ダメもとで現場に戻つたら葛西が見つけてくれて助かつたんだけど…なんと残高百五円

城戸 ああ：

江崎 金額が金額だから親族もそれ以上何も言わなくなつたけど…冷や冷やもんだつたよ

城戸 …気を付けます

江崎 座れ

江崎は城戸に向かつて床を指さすが、焼け焦げた床が広がるのみ。城戸は躊躇する。江崎は始末書を書きながら城戸と話す。

江崎 慣れろよ。山田のチームで研修受けたんだって？

城戸 はい

江崎 あいつは眞面目だからな。俺と全然違うだろ

城戸 (困惑する)…まだなんとも…

江崎 正直に言えよ。研修は楽な現場でやるんだ。やめられたら困るからな。これから先、特殊清掃にも付き合つてもらうぞ。床にできた人形

(ひとがた)のシミ。鼻をつくえげつない匂い。ここなんか炭のいい香りじやないか。座れつて。痛みに慣れるんだ

城戸 はい：(座る)

江崎 この仕事、どう思う？

城戸 素敵な仕事だと思います

江崎 本心か？

城戸 はい(笑顔)

江崎 無理するなよ。これ(アルバム)、適当に見て

城戸 はい

江崎 想像するんだ。たつじいがどんな人間だったか

城戸 はい：(熱心にアルバムを見る)

江崎 たつじいがどれだかわかるか？

城戸 え？(考えて)この人ですか？

江崎 バカ。こいつはたつじいの親だ

城戸 私、会つたことないですから

江崎 俺も会つたことないわ。斎藤龍吉(たつきち)、七十四歳だぞ。長男は四十歳。そんな白黒写真で息子抱えて笑顔なわけないだろ。これは小さい時のたつじいと親の写真だ。たぶん

城戸 なるほど

江崎 お前、ちゃんとした大学行つてたらしいな

城戸 やめてください

江崎 うちは高卒が多いから噂になつてるぞ。大変だな、学歴があるつてのも

城戸 :中退ですから

江崎 それも聞いた：なんか、バカなことやつたのか

城戸 :

江崎 俺はたつじいのことも知りたいけど、一緒に仕事する仲間のことも知りたい。佐野の奴は自己満足って言うけどさ、知つたら、何かできるかも知れないじゃないか

城戸 :

江崎 気にするな。うちの会社はわけありの奴が多い。社長のボリシーなんだよ。信じてあげるだけで変わる奴がいる。そして、そういう奴は裏切らないって

江崎 俺はお前を信じる。でも心配なんだよ。きっと、いい給料もらって、綺麗なオフィスで働いてる同級生がいるだろ……それを見たときに辛くなつてやめちまわなかつて

城戸 詐欺をやつたんです

江崎 :

城戸 いいバイトがあるつて友達に紹介されたんです……訪問販売の……。龍吉さんみたいな一人暮らしのお爺ちゃんの家に行つて……仲良くなつて物を買わせる……

江崎 :

城戸 買わせた商品、確かに高かつたけどそんな捕まるなんて……警察でも、うすうすわかつてたんだろって言われたんですけど……おじいちゃん、私と話してたら嬉しそうだつたし……

江崎 世の中にはな、色んな人間の気持ちを踏みにじつてでも儲けたい、ひどい奴がいるんだよ……それでも信じることをやめちゃいけない

城戸 私は……大丈夫です

江崎 ……信じるよ。この仕事、できる限り続けてくれよ

城戸 もちろんです……

江崎は始末書の続きを書こうとするが、書けない。

江崎 城戸はさ、たつじいとあの息子、仲直りできると思うか？

城戸 はい。だつてそれが一番ですもん

江崎 お前は、そのアルバム、どうなると思う？

城戸 息子さんにお渡しするんですよね？

江崎 それから？

城戸 どこかにしまわれて

江崎 打ち合わせで会つただろ？あの息子を見てそう思えるか？

城戸 アルバムくらい

江崎 あの息子は、面倒だから俺らに押し付けたんだ。とおの昔に縁を切つた親父がガラクタ貯め込んで死んだんだからな

城戸 ガラクタだなんて

江崎 あの息子にとつてはガラクタなんだよ。どうやつたらこのアルバムが、あの息子にとつて宝物になるか…そして、もし捨てられるだけなんだとしたら、最後にせめて俺たちが見てやらないと…

江崎はアルバムを開いて思いをはせる。城戸はその姿を見て一つ頷き、アルバムを優しい目で見始める。
アスパラと葛西が入つてくる。再び小芝居を始める。

葛西 お父さん、何よこれ！お母さんの服こんなにしまいこんで？どうすんのよ
江崎 ああ：

葛西 お母さんが死んで何年たつと思ってんの？もう片付けてもいいんじやない？

アバ どうせ売りに行つても値段つかないしさ、寄付に回す？

江崎 そうだな。わしの服もいらんよ。全部捨ててしまおう

アバ じゃあ明日からどの服着るんだよ

江崎 ああ：そうか：全部捨ててしまつたら…ごめん、だめだな、今日は

アバ もう：

江崎 ：

葛西 アスパラ、何か面白い事いって江崎さん喜ばせなさいよ
アバ はーい、今日も緑のアスパラさんですよー

江崎 :

アバ (黒い女性物の服をあてて) かつぱ巻き

江崎 :

アバ (橙色の女性物の服をあてて) アスパラベーコン

江崎 :

アバ (寝転がつて) サラダ!

佐野 が入つてくる。アスパラを無視して話し始める。

佐野 クーラー、外しときました。カイワレ、あと梱包しといて
アバ アスパラだよ!

佐野 (無視して) それにしても仏さん、毎日同じ場所を歩いてたんでしょうね。生活感のある部屋と、何年も入つた形跡のない部屋…
江崎 そりや、一軒家にじいさん一人だからな: とりあえず、売れる服以外は処分だ。ブランド物の確認、今日も頼むぞ
葛西 はい。江崎さん、早く元気になつてください

江崎 ああ

葛西 ブロッコリー、手伝つて
アバ アスパラだよ!
葛西 そこまでは面白いんだけどね:
アバ どういう意味だよ!

葛西とアスパラは出でいく。

佐野 休憩入ります
江崎 おう

佐野は座つてココアシガレットをかじりながら缶コーヒーをあける。
城戸はアルバムを見ている。

城戸 あ、この写真、この部屋だ
江崎 確かに、こっちから撮つてるな

城戸 ここ、取り壊すんですよね？こんなに思い出が詰まってるのに…

江崎 わしが死んだらこの家も壊してくれ…もう誰も…いや、違うな…
城戸 …

城戸 佐野 江崎さん
江崎 ん？

佐野 やっぱりそれ、失礼ですよ。仏さんに

江崎 そうかな

佐野 はい。仏さんは仏さん。江崎さんは江崎さん。江崎さんが仏さんになることはできない

江崎 …お前とはいつもこの話だな
佐野 だつてそう思いますもん

江崎 でも今日はいつもよりこたえるわ…
城戸 …

江崎 佐野は、この仕事好きか？

佐野 そもそも同じ。仕事は仕事。好きも嫌いも、ありません

江崎 ぶれないねえ、お前

佐野 本心ですから

江崎 じゃあさ、俺はこの仕事してますって堂々と言えるか？

佐野 新しい展開ですね

江崎 どうだ？ 胸張って言えるか？

佐野 誰に言うんですか

江崎 そりやお前：友達とか：彼女とか

佐野 仕事してる、でいいでしょ

江崎 城戸はどうだ？

城戸 ：私は、ちゃんと、親に言いました

江崎 （慌てて）ああ：

城戸 ：まつとうな会社だよって

江崎 ああ：

城戸 ：もう一度とバカなことはしないって

江崎 城戸

江崎 城戸

うちの会社、ホームページいいですよね！天国へのお引っ越しサービスって

江崎 そんなキャッチフレーズなの？

佐野 知らないんですか

城戸 親も、ホームページ見てようやく安心したみたいで…うちの社長の言葉とか載ってるじゃないですか、いわゆる社会貢献、みたいな…

江崎 ああ：

佐野 お金さえかければホームページなんていくらでも作れるのにねえ…
江崎 変な会社はそれすらやらねえんだよ。他には何も言われなかつた？

城戸 食べていけるのかって聞かれましたけど…手当とかちゃんと出るって…そこらへんは適当に

江崎 特別手当が出るのは…えぐい現場の時だけだぞ

佐野 俺、こないだ首吊りのロープ外しましたけど出ませんでしたよ

江崎 それくらいじゃ無理だ。せめて風呂で腐った死体のカスをだな…こう髪の毛とか脂肪とかでドボドボになつた風呂の水を

江崎は身振りを交えようとするが、城戸の様子を見てやめる。

城戸 :

江崎 それで佐野、首吊りのロープ外したって彼女に言えるか？

佐野 聞いてきましたよ

江崎 聞いてこないだろ

佐野 でしきうね。江崎さん、お母さんのこと、考えてるんでしょ？

江崎 :

佐野 もしかして、言つてなかつたんですか？

江崎 いや、言つてないとか…まあ…俺なんか、ちゃんと働いてるだけで奇跡だからさ。おふくろは安心してたんだよ、きっと…きっとな…あー、

佐野 やめやめ

佐野 はい

城戸 (江崎を見る)

佐野 :

城戸 江崎さん…

江崎 :

城戸 死体も運ぶんですか？

江崎と佐野は拍子抜けする。

江崎 そこかよ

佐野 そこなんだ

江崎 言葉には気をつけろよ。死体じゃなくて、ご遺体。ご遺体は警察が運ぶから俺たちが見ることはない。だいたいいうちは、遺品整理をうたつてるんだ。えげつない現場なら特殊清掃中心の会社に頼むだろう。山田はなにも言つてなかつたか？

城戸 はい

江崎 そうか：

城戸 私も、早くそういう現場に行きたいです

江崎 ドボドボの風呂か？

城戸 はい。じゃないと、慣れないんで

江崎 慣れ、なあ：。さつきは慣れろって言つたけど、慣れるつてのは、辛くなくなるつてことじゃないからな

城戸 …どういうことですか？

江崎 慣れるのは、痛みに慣れるんだ。ひざをすりむいて泣いてたガキが、大人になれば骨折したつて泣かなくなる、みたいに…。この部屋でたつじいは暮らしてた、腐って死んだ奴もそれまでは生きていた。それをただの物みたいにあつかつて、大丈夫、平気、そんなのダメだ。全部人なんだよ、生きてた人なんだ

城戸 山田さんには、何を見ても人を考えるな。入り込んだら辛くなるぞ、つて言わされました

佐野 正解

江崎 俺は嫌なんだよ。モノだとは思いたくない：

佐野 それは結局希望なんですよ、江崎さんの。特別な仕事をしてると思いたいっていう

江崎 そんなんじゃねえよ

佐野 そうですよ。儀式も、他の人とは違うことをしてるつて思いたい希望

江崎 :

佐野 僕達の仕事は、特別かもしませんけど、それはただ、人がやりたがらないっていう意味での特別。遺品整理っていう汚い仕事
江崎 汚い仕事ってなんだよ！僕達の仕事は！汚いこともするけど…

佐野 でも、それは人として健全だと思います

江崎 ？

佐野 自分の仕事に誇りを持とうとするのは

佐野は立ち上るとゴミ袋に空き缶を捨てる。

佐野 台所見ていますね

江崎 : おう

城戸は気まずい空氣から逃れるため、アルバムを見ている。江崎はそれに気づく。

江崎 : 城戸、佐野の奴：親の顔を知らないんだ。小さい時に捨てられて、施設で育てられたって…だからちょっと気にしてやってくれ
城戸 あ…すみません…わかりました…

アスパラが飛び込んでくる。

アバ アスパラボウボウ、アスパラ農場！

江崎 なんだよ、脅かすな

アバ すみません。城戸さんにも来てもらつていいですか？服が多くて。奥さんの服かどうかもわからないのまであって
江崎 おう。それ(アルバム)、そのままにしといて
城戸 はい。江崎さん…私は、この仕事、精一杯やりたいです

江崎
：

成言

城戸 精一杯やつたら、江崎さんの言う、特別な仕事になると思います！龍吉さんと遺されたご家族をきつちりつなぎましょう！

アパでもね、城戸さん。本当にひどい家族もあるんです。写真は別にいりません通帳だけは見つけて下さいね。隠し口座があるかもしれない。生命保険だって……

戊
言

卷之三

二二二

二〇

アバ 最後は報告書にあつた通帳がなくなつたってすごい騒ぎ。そりや僕達も悪いんですけど、必死なんですよ……最後、残金百五円の通帳を渡して……なんともいえない顛して……ああ、金目のもの見つけるためだけに美達呼んだんだなって

アバ 堀戸
僕たちにできるのは、人生のエンドロールをちょこつといい感じにするくらいなのかな…

葛西が毛皮のコートを持つてくる。

お父さん！これ、お母さんのロート！
でしょ？私もうつてもいい？

工崎
ああ……好きにしろ。このお嬢さんにも、何か待をせてやつてくれ

はや！ ジやあ、二つあ来て！ 化粧品は何使つてる？

葛西　はい！じゃあ、こっち来て！化粧品は何使ってる？◆◆とか▲▲とか
城戸　…葛西さんは、私たちで何ができると思ひますか

葛西 もう、今は私、
葛西 ジやなくて、あけみなの！達吉さんの娘！

工奇 奴も聞かせてくれ

葛西
之

アバ
なんが今日、ぎつて二、三な空氣

葛西：江崎さん、お葬式行かれたらおかしいですよ…そりや悲しいのは当然ですけど…

江崎 …俺の中に迷いがあるんだよ。だから龍吉さんの気持ちも見えてこない…

葛西 どんな迷いですか

江崎 俺は、なんのために生きているのかどう生きるべきなのか…葛西は、迷うことないのか

葛西 …私は不器用なんで…そういうのやめました。思うがままやるしかないと…もちろん、むかついたから殴るとかもうしませんけど…私は、

江崎 さんなりに精一杯やるしかないと思います

江崎 俺なりの精一杯な…ごめん、服大変なんだろ、みんなでかかってくれ

葛西は城戸、アスバラとともに部屋を出ていく。

江崎はコップ酒を机に叩きつける。

江崎 …あー！

叫ぶと江崎はごろんと横になる。が、すぐに落ち着いて紙の分別にもどる。さきほどよりは少し雑になつたように見える。

江崎は不意に涙ぐみ、手が止まる。そして再び紙の整理作業を始める。また丁寧な作業に戻っている。

佐野が入つてくる。

佐野 なに叫んでるんですか。台所もガラクタばっかり。でも見つけましたよ、通帳。冷凍庫の製氷機の裏に入つてました。あれは俺達じゃないと見つけられないですね

江崎 おう、ありがとう。金庫に入れとくわ

佐野は江崎に通帳を手渡す。

佐野 はい。なかみ、あまりないですけど、今日の代金くらいにはなるんじやないです

江崎 あの息子が見つけてほしかったのは、本当に金だけなのかな…

佐野 親を嫌いになるわけない、ですか？

江崎 俺はそう信じたい

佐野 親が子供を捨てることがあるんです。逆はもっとあるでしょ

江崎 :

佐野 親のこと、気を使わないで下さいね。気を使われたほうが嫌なんです。龍吉さんといっしょです

江崎 龍吉さんがどう思つてるか、お前もわからないだろ

佐野 まあ。俺は嫌なんです。勝手に悲しい人間みたいに想像されるの

江崎 でもな…嫁さんはとうの昔に死んじやつて、家に一人。息子も娘も訪ねて来ない。近所付き合いもない。寂しいと思うんだよ…本当に寂しかったと思うんだ…

佐野 :

江崎 年金だけのその日暮らしでさ。いいことなんてなんもなく、趣味は読書くらい。古本屋で百円で売ってる単行本。表紙のない小説…気に入った個所があれば紙に写す…でも読んでくれる人はいない。黙つて捨てるだけ…

佐野 老後なんて、みんなそんなもんじやないんですか

江崎 : なあ

佐野 なんですか？

江崎 愚痴、言つてもいいか？

佐野 ご自由に

江崎 :

佐野 お母さんの話でしょ？いいですよ、気を使わないで下さいって言つてるでしょ？

江崎 : 母親の葬式でさ。親戚がみんな集まつてゐるわけよ。俺、親戚からハブられて…じつと無言でみんなの自慢話聞いてたんだ。兄貴はすごい出世しててさ。でも、なんとも思わなかつた。俺は遺品整理のプロだ。母親は一人で住んでたからさ。掃除、片付け、ようやく恩返しできるなつて…

佐野　：

江崎　でもな、その話になつたときに兄貴が言つたんだ。俺達がちょっとずつやるから、お前は東京帰つていいぞつて。兄貴は母親の近くに住んでたんだ。しそつちゅう家に寄つてゐるから、どこになにがあるかもある程度わかるつて…兄貴はな、俺に気をつかつて母親の体調のことも知らせなかつた。本当によくできた人だよ…

佐野　：

江崎　でもな…俺だつて…親孝行をしたかつたわけよ。できは悪かつたよ。さんざん悪いこともしたよ。でも、母ちゃんが俺を信じてくれてたから、立ち直れたんだよ。なのにさ、何も返せないんだよ、仕送りするような余裕はない、兄貴みたいに孫の顔も見せれてない、そして…そばにもいなかつた。母ちゃんが何を思つてたか、欲しがつてたか、会つてなけりやわかるわけがないんだ…

佐野　江崎さん？もしかして醉つてます？

江崎　酔つてないよ。酔つてない…でも、会つて話すつていう一番大事なことをおろそかにしてた自分がさ、嫌になつたんだよ。こんなことわかつてたのに…この物にこめられた思いは、この本には何が、このメモはどうして書いたのか、この封筒は？どれだけ想像力を働かせても、もう話すことはできないんだ…生きていたときの一言には勝てない…

段ボールの中から出てきた封筒を見て、江崎は息をのむ。

封の閉じていらない封筒の中身を取り出すと江崎は目を走らせる。

突然動きを止めた江崎を無視して佐野は部屋を出ていこうとする。

佐野　：終わりました？

江崎　：

佐野　台所に戻りますね

江崎　：

佐野　：江崎さん！

江崎　：

佐野 (封筒を見て) 遺書?

江崎 シー!

佐野 どうしたんですか?

江崎は少し考えるが、遺書の本文だけ佐野に見せる。

佐野 : 一億円!

江崎 シー!

佐野 ここに書いてる宝くじって?

江崎 ある(封筒を指差す)

佐野 よかったですね。私達がいなかつたらそのままゴミ箱いきだ

江崎 ちがう! ここ!

佐野 次女のよしみにすべて与える…? どうかしたんですか?

江崎 これ、あの息子が書いた申し込み用紙!

佐野は用紙に目を走らせる。

佐野 名前がないですね

江崎 そなうなんだよ、二人兄弟じゃなく、三人だつたんだ…あの息子、隠してたのか知らなかつたのか…

佐野 どうするんです?

江崎 どうもこうも…

アバ (部屋の外から) 父さん!

江崎 今は黙つてくれ。誰にも言うなよ

佐野　はい

佐野は部屋を出していく。江崎は慌てて封筒をポケットに入れる。アスパラが入ってくる。

アバ　父さん！なんなの、この服！

アスパラの後ろから葛西が学生服を着て現われる。葛西はなぜか嬉しそう。

葛西　お父さん！お母さんにコスプレさせてたの！お父さんもすみにおけないわね

江崎　：　アバ　どうする？こういうのは処分したほうがいいの？他の人に見られたら恥ずかしいだろ

江崎　：　アバ　（通帳を見て）おっ！通帳じゃん（とあり上げて）まー、こんなもんか。これ、貰つて行くよ

江崎　：　アバ　…そんな端金（はしたがね）が欲しいなら、くれてやるよ

アバ　父さん？

葛西　いいの？

江崎　：　アバ　あ…いや、ごめん。違う。そんなわけないな…

葛西　もう！江崎さん！城戸にも着せましょうか？看護師、スッキー、色々ありますけど

江崎　：　アバ　…

葛西はアスパラに視線を送ると首を振つて部屋を出していく。

アバ　江崎さん…面白くないですか、お爺ちゃんの部屋から制服が出てくるんですよ

江崎 :面白いってなんなのかな…

アバ え、この、プロの芸人にそんなこと聞きます？江崎さん、そんな話僕が始めたら一晩じゃ終わりませんよ
江崎 いいから一言で言つてくれ

アバ いや、え…そんな…

江崎 ほら

アバ なんですかそれ…えーと…一言で言うなら…自分が面白いと思うものが面白い！伝わるか伝わらないかは別問題！だって自分が面白いと思わないものは面白くないじやないですか！

江崎 そうか、ありがとう

アバ え…それは、オッケーって意味？もしくは、大外れって意味？

江崎 早く仕事に戻れ

アバ 何それ、江崎さん…この展開も、ちょっと面白い

アスパラは部屋から出ようとする。

江崎 おい、通帳返せよ。持つてくな

アバ 軽いボケですよ！なくしたら、また江崎さん始末書かかなあきませんもんね

江崎は通帳を携帯金庫の中に入れる。

葛西 お父さーん！

葛西が嫌がる城戸を連れて現われる。城戸も新しく服を着せられてる。

葛西 どう、元気でてきた？今日は二人よ

江崎 誰だよ、そいつは

葛西 何言つてんのよ、妹のキドミじゃない

江崎 (慌てて)お、俺には娘は二人いないぞ！お、お前らも知つてるだろ！

葛西 うそ…お父さん、キドミを忘れちゃつたの

葛西は城戸を睨む。

城戸 (極めて下手に)エーン、エーン、お父さん、キドミのこと忘れちゃつたの？

江崎 いや…ああ…覚えてるよ。ただ、お前は…なあ。もう、よそ様の家の子だ

城戸 …私は、お父さんの娘だよ

アバ (息子になつて)ちようちよう、親父。どういうこと？こんな奴娘だなんて言い出したら、俺の取り分が少なくなるだろ

葛西 お兄ちゃん、何言うの！キドミだって私たちの兄弟よ！

アバ 知らねえよ！養子に出した女だろ？その親父の都合でさ！

葛西 ひどすぎるわお兄ちゃん！それはキドミには関係ないでしょ！

奇妙な盛り上がりを見せる葛西とアスバラと城戸。

佐野 お客様來ましたよ

佐野 が現われて声をかけるが誰も気づかない。

佐野 お客様です。ここに来ますよ

江崎は気づくが、三人は盛り上がったまま。

江崎 誰だよ？勝手に入れるなよ

佐野 龍吉さんの娘さんだそうです

江崎 お前ら！ちょっとやめろ、やめろ！

アバ 何がやめろだ？全部お前が悪いんだろ！

城戸 お兄ちゃんやめて！

葛西 お父さんちゃんと言つてよ！私達兄弟、本当は仲良くしたいのよ！

江崎 違うつて！

あけみが入つてくる。

あけ お世話になつてます…？

凍りついた葛西達三人は一礼すると部屋を飛び出していく。

江崎 ああ：服が破れていなかどうか、ああやつて着て確かめてるんです。決して遊んでいるわけじゃありません

江崎はあけみの目につかないように始末書をカバンにしまう。

あけ あ…ありがとうございます

江崎 この度はアポロクリーンサービスを御利用下さいましてありがとうございます

あけ いえ：兄が勝手に頼んだ事ですから
江崎 よしみさんでいらっしゃいますか？

あけ あけみです

江崎 ああ：長女の

あけ はい。娘は私一人です

江崎 あー、すみません、勘違いです：

あけ ここで父は亡くなつたんですね

江崎 はい

あけ お花は…？

江崎 (頷く)

あけ ありがとうございます。灰皿だ：まだタバコの匂いがするみたい：

あけみは持つてきた花を供えると手をあわせる。

あけ 最後までバカな父でした。火には気をつけて、つて言つてたのに。ご近所に燃え広がらなかつただけ、まだよかつたのかな…

江崎 …

あけ すみません。私がやればいいのに…事情がありまして

江崎 いえ、なかなか大変ですよ。御遺族のかたは、一つ一つに思い入れがあるでしあうから時間がかかりますし。ここなんか天井がありませんから急いでやらないと

あけ どれくらいかかりそうですか

江崎 大人数でかかっていますから、今日中にはおおかた終わると思います。貴重品と思われるものは最後に確認して頂きますが…今のところ貴重品と思われるものは通帳が一冊あるだけです。こちらはお兄様にお渡ししておきます

あけ ええ：ああ、私が来たことは秘密にしておいて下さい。知つたら、きっと兄は怒りますから

江崎 そうなんですか

あけ はい

江崎 :

あけみは部屋をぐるりと見渡す。

あけ なんか知らない家みたいで。久しぶりだから

江崎 中学生くらいまではこちらで過ごしたんですね?

あけ はい:高校を出るまでは。どうして…?

江崎 アルバムを拝見しました

江崎はアルバムを差し出す。

あけ :これ、お父さん?若い…

江崎 初めて見るんですか?

あけ 私達が生まれる前の写真なんて…あつたんだ…本当に初めて…どこですかね、ここ?

江崎 なんでしょう:劇場みたいですね。人も大勢いて…

あけ 覚えてないな:意外です。あんな父が、お芝居を見に行くだなんて

江崎 厳しかった?

あけ 厳しいというか:ダメな人でした。家族に迷惑ばかりかけて。自分が正義、自分が一番。母にもきつくなつたが、私が中学生の時

に母が亡くなると、さらにひどくなつて:兄が嫌うのも、もつともです

江崎 :お兄さんは、ほとんど会話されていなかつたそうですね

あけ 兄が言つてたんですか?

江崎 はい

あけ (アルバムを見ながら)兄も小さい時はたぶん父の事嫌いじゃなかつたと思うんです…怖かつたんですけど、それはどこにでもある話で…いつから話さなくなつたんだろう…もつとも、最近は、会話できる精神状態じゃありませんでした

江崎 お父さんが?

あけ はい

江崎 :

あけ でも亡くなつてしまふと…一回くらい会つておけばよかつたつて…ちょっととした後悔があるんです…

江崎 :

葛西 が入つてくる。

葛西 すみません

江崎 どうした?

葛西 いえ、さつきの…誤解されていないかと思いまして

江崎 ああ…服のチェックな。チェックしてたんだよな

葛西 …はい

あけ ああいう服、何に使つていたと思ひます?

葛西 使つていた?

あけ 父が着ていたんです

葛西と江崎は顔を見合わせる。

江崎 :

あけ セーラー服や看護師の服を着て、近所や繁華街で散歩

葛西 (なんともいえない表情)

江崎 どうしてそんなことを?

あけ わかるわけないですよ。頭がおかしくなったんでしょう。兄は、私達に対する仕返しだろうって言つてました

葛西 どのあたりが仕返し?

あけ 私達が家を出て行つてから、そういうことをやりはじめたんです。近所の人からも白い目で見られて。中には私達に電話してくる人もいました。お父さん、みんななくなつたからおかしくなつたんじやないかって

葛西 近所の人のそういう反応を見越してやつたということですか

あけ だからわかりませんよ。でもそりや還暦を超えた男の人がお化粧して散歩して、駅前でわけのわからないことを叫んでたら、噂にもなりますよ

葛西 もしかして山のようにあつた化粧品は…

あけ 化粧品?どこにですか?

葛西 ドレッサーの周りに袋に入つて山のよう

あけ 知りませんけど、おそらく父のでしよう。母は亡くなつて二十年たちますから

葛西 使えるものばかりですけど…どう処理すればいいですか?

あけ 捨てて下さい。気持ち悪いから

葛西 わかりました…あ…

葛西は何かを言おうとするが言葉が出てこない。

江崎 いいよ葛西、化粧品処理してこい

葛西 はい!

葛西は、慌てて出ようとするが、供えてあつたコップを倒してしまう。

葛西 あ、すみません！

江崎 何やつてんだよ

江崎はタオルを渡そうとするが、宝くじの入った封筒が落ちる。遺書という字だけを葛西は確認する。江崎はあけみに見られないように封筒をポケットに直す。

葛西 …！

江崎 (目で葛西を制する)

葛西は逃げるよう部屋を飛び出していく。

江崎 :

あけ 作業の邪魔はしませんから、家の中を回らせてもらつてもよろしいですか？

江崎 もちろんです。お邪魔どころか、作業に立ち会つて頂いたほうが、我々としても作業がや

りやすいのですが

あけ 私がいてもいっしょですよ。私、何も知りませんから

江崎 : はい

あけみは出ていく。江崎は遺書をもう一度見ると、しつかりと内ポケットに直し、作業を再開する。別の部屋。佐野が作業をしているところに葛西が駆け込んでくる。

葛西 佐野！佐野！大変よ！

佐野 何ですか？

葛西 そんな、炊飯器いじくつてる場合じゃないわよ！遺書よ！遺書！

佐野 ああ：

葛西 ああ：って、知ってるの？

佐野 まあ。葛西さんには言ったんだ：

葛西 聞いてはないけど、見ちゃったのよ！わかつてる？遺書よ！どうして驚かないのよ

佐野 俺も驚きましたけど：関係ありませんから

葛西 関係ないって：あんたね！今日、江崎さんの様子ずっとおかしいと思わなかつた？江崎さん、お母さんを溺愛してたのよ！好きで好きで仕方がないお母さんが死んで、もう後を追おうとしてんのよ！ねえ、佐野？どうやつたら私止められる？私、江崎さんが死んじやつたら…：

佐野 はあ：

葛西 佐野！あんたは江崎さんに恩義を感じてないの？

佐野 えっと…

葛西 関係ないってどういうつもりなの！会社にも関係あることでしょ！これで会社にまで義理がないと言い出したら私も黙っちゃいないわよ！めんどくさいから言いますけど、江崎さんの遺書じゃありません

佐野 …え？

佐野 龍吉さんの遺書です

葛西 …はあ

佐野 そういうことです

葛西 …じゃ、じゃあなんであんな隠すように！娘さんに渡したらいいじゃない？堂々と！

佐野 ま…色々あります

葛西 色々って何？

佐野 …：

葛西 もしかして、あんたは知ってるの？え？私だけ仲間外れ？これだけ江崎さんのこと慕つてた私が仲間外れ？それは納得いかないわねー

佐野 葛西さん

葛西 なに？

佐野 めんどくさい

葛西 :

佐野 一億の遺産が見つかったんだけど、あの人達には渡すなって書いてあつたんです。以上

葛西 一億？

佐野 倘が言つたって言わないで下さいよ

葛西 一億？

佐野 約束ですよ

葛西 渡すな？

佐野はその場をあとにする。葛西は茫然として出ていく。

再び江崎のいる部屋。

江崎はメモに書かれた言葉を読んでいる。

江崎 人を喜ばせると自分も喜べる…ニーチェ。人間には二種類しかいない。一つは、自分を罪人だと思っている善人であり、一つは、自分を善人だと思っている罪人である…パスカル。五秒以内の反則なら相手を許す。反則を許して、自分から手を広げてやる…アントニオ猪木。（読みにくい）柿（かき）おとし？柿おとしは新たな出発。笑いは心の柿おとし…ジョージ？

江崎は首をかしげる。

城戸が入ってくる。

城戸

江崎さん…

そっちの部屋、整理ついたか？

城戸

はい…

江崎 どうした？

城戸

江崎 なんだ？言つてみろ

城戸

アスバラさん…さつき、なにか服の中に入れてました

江崎

：盗んだってことか？

城戸

どうなんでしよう？…お腹のところに隠すみたいに…

江崎

何やつてんだよ…わかった。俺があとで聞き出すから、他に何かしないか見といてくれ

城戸

はい

城戸が出て行くと、葛西が入ってくる。

葛西 江崎さん

江崎 なんだ？次から次に

葛西 さつきの遺書…

江崎 ああ…

葛西 一億円、ですか？

江崎 はあ？！

葛西 佐野に聞きました

江崎 :

葛西 どこにあるんですか？

江崎 (服の内ポケットを指差す)

葛西 貴重品は金庫に入れないと…

江崎 …こないだも、そこに入れてあつた通帳がなくなつたし…なあ?

葛西 どうするんですか?

江崎 どうするつて…そりや、渡すよ

葛西 渡すなつて書いてあるんでしょ?

江崎 あいつ、どこまで言つたんだよ…仕方ないだろ、この家で見つかったんだから

葛西 息子さん、大喜びでしうね

江崎 だらうな

佐野が入つてくる。

佐野 炊飯器、直りましたよ。休憩入ります。しかし龍吉さん、ご飯も炊かずに何食べてたんでしょうね?すき屋、すき屋、ここいち、すき屋、
松屋、吉野家、元禄寿司

佐野はココアシガレットを取り出すが。

葛西 龍吉さんの意志はどうなるんですか!渡したくないから一億円、だまつて残してたんでしょう?

佐野は立ち上がりつて部屋を出て行こうとする。

江崎 佐野:

佐野 気づかれる江崎さんが悪いんですよ

江崎

：

葛西 江崎さん、いつも言つてるじゃないですか！故人の気持ちになつて考えろつて！

江崎 声が大きい

葛西 ；私達しかいなじやありませんか。一億円、守れるのは：

江崎 無茶言うなよ

佐野 そうですよ。ちゃんとした書類がないんだから依頼主に渡すしかないでしょ？

葛西 セめて娘さんに…

江崎 お兄さんを怖がつてるんだ。受け取らないだろう

葛西 ；わかりました。じゃあ、セめて金庫に

江崎 ；

葛西 鍵貸して下さい

江崎 ああ：

江崎は葛西に鍵を渡し、一拳手一投足を確認しようとするが。

アバ 江崎さん！

江崎はアスパラに気を取られて目を離す。そのすきに葛西は封筒から宝くじを抜き取る。

葛西は金庫に遺書だけを入れて鍵を閉める。

アバ おお！金庫を触っているということは、また金目の物が見つかりましたね

アスパラの後ろから城戸も続く。

江崎 まあな

アバ もしかして一億円とか

江崎 あ、ああ？！

城戸は葛西のそばに行つて金庫をアスパラから遠ざける。

アバ 何驚いてるんですか？軽いジョークですよ

城戸 江崎さん！お腹に入れてます！あと左のポケット！

江崎 アスパラ！手を上げろ！

アバ え、ダメ、ダメ！

江崎 上げろって言ってんだよ！

アスパラが反射的に手をあげるとビデオテープが落ちてくる。

アバ あー！芸人のノリで手をあげてしまったー！割れてない？大丈夫かな？

江崎 なんだそれ？ビデオ？

アバ トップジョージ師匠のビデオです！もー、貴重品なのに…

葛西 トップジョージ？

アバ 師匠をネズミの人形と一緒にしないで下さい！浅草で一世を風靡したトップジョージ師匠ですよ！

佐野 知らない

アバ まあ、テレビはお嫌いな方でしたから。そんなトップ師匠のビデオがこんなところで見つかるなんて

江崎 左のポケットは？

アスバラはポケットからカセットテープを取り出す。

アバ 師匠のカセットテープです。もう、ビデオのさらに上！激レア品ですよ

江崎 それを盗んで売りさばくつもりだったのか

アバ 盗む！…あ！もしかして城戸さん…僕が盗んだと思つて…そんなことするわけないでしょ！
江崎 じゃあなんでコソコソするんだよ

あけみが入つてくる。

アバ あけみさん！私、アスバラさんというしがない芸人なのですが、私の心の師匠、トップジョージョ先生のビデオとカセットテープ、ぜひとも
私にお譲り願えないでしようか！

あけ え？

アバ もちろん、あけみさんが大切にされるとおっしゃるのなら私は泣く泣くこれを手放します。しかし、そうでないのなら一番価値のわかるこ
の私、アスバラさんに、ぜひとも清き一票を：

あけ …父の遺品にそんなものが？

アバ はい、めちゃくちゃお目が高いお父様です

あけ そんなに価値のあるものなんですか…

佐野 ないと思いますよ。（スマホを見て）師匠のウイキペディア、二行で終わってます。トップジョージョは十、二十…

アバ 世間の評価なんてどうでもいいんです！あけみさん、どうしてもダメならトップ爆笑ライブ83だけでも…あと、カセットも…
江崎 隠して持ち運んでたの、俺らを出し抜いて先に交渉するためか？

アバ ごめんなさい、じゃあほしい人はジャンケンで！はい、じゃんけん…

もちろん誰も参加しない。

佐野 誰もいらないって

あけ 私も…きっと兄もビデオやカセットなんて使えませんし…お譲りします

アバ ありがとうございます！

佐野 もしかして、ここに(ラジカセ)入ってるのも?溶けてるけど

アバ あー、もつたいない！

あけ トッポなんとかさんって、どんな芸人さんですか?父と芸人って、結びつかないんですよ

葛西 アスパラ、できんじやない

アバ え?そりや、何千回と見てるんです。物まねならできますよ

あけ :見てみたいです

アバ ジゃあやつてみましょか?(思いついて)あーさつきの服、お借りしていいですか?

あけ え?…はい、どうぞ

アスパラは部屋を飛び出していく。

葛西 さつきの服ってなに?

城戸 さあ:

あけ さつきの芸人さん、テレビにも出たりするんですか?

葛西 はい。ほんとたまに

あけ 私、一度だけラジオに出たことがあります。小学生のときに「私のお父さん」って作文で表彰されて。あの頃は父ともよく話してたんだ

ろうな…

アスパラは上半身にピチピチのセーラー服を着て飛び出してくる。

アバ どうもー、謝り続けて六十年。浅草に咲くベンベン草。トップジョージーです！(お客様にむかって)似合ってる？そう、ありがとうございます！

アスパラのネタが続く中、その言動や仕草が龍吉の行動と似ていることにあけみは気づく。

アバ (決め台詞で)いつも、いつも、ごめんなさい！

あけ お父さん…

全員 お父さん？

あけ あ…いえ…

葛西 お父さん…ですか？これが？

あけ …はい

江崎 服が同じだから？

あけ 服だけじゃなくて…

佐野 言葉？

あけ そうなんです

江崎 わけのわからないことを言つてたつて…

あけ はい。いつも、いつも、ごめんなさい…駅前の噴水の前で。白い目で見られながら

江崎 見てらしたんですか

あけ …そりや…近所の人に言われたんで…気になつて…

アバ あの…僕、続けたほうがええんですか？

あけ お願ひします

あけみは真剣なまなざしでアスパラを見つめる。

アバ やりにくいな…(気をとりなおして)えー、トッポジヨージのいい話。先日…

アスパラのネタをあけみは食い入るように見ている。

アバ いつもいつも
あけ ありがとう…

全員
⋮

アバ も、もー。とらんといて下さいよ、そこが気持ちええんやないですか

葛西 バカ!あんたのことなんかどうでもいいのよ!

あけ いつもいつもごめんなさい。いつもいつもありがとうございます…セーラー服、看護師…

葛西 アスパラ!

アバ 全部師匠のパクリじゃないですか

あけ
え⋮

江崎 ⋮アスパラ!この写真つて

アバ 浅草演芸ホールじゃないですか!え…もしかしてみんな知らないんですか?落語家さんとか、渋い芸人さんが集まる…

江崎 トッポジヨージは?

アバ だからトッポジヨージ師匠!そりや師匠も出てましたよ。みんないい笑顔だ

江崎 あけみさん⋮

あけ 父に、こんな趣味があつたなんて…

江崎 御存知なかつた?

あけ (頷く)

江崎 どうだつたんですか、お父さん。駅前で…こう、ものまね？してらした時は…

あけ どうつて

江崎 輝いてた？

あけ そんなわけないでしょ

江崎 元気だつたんじや？

あけ 覚えてません。すぐにその場を立ち去つたので

江崎 笑顔だつたんじや？

佐野 江崎さん！

江崎 :

あけ :

江崎 すみません…でも私には…どうしても、龍吉さんがおかしくなつていたように思えません。部屋もそこまで汚れていませんし、この

メモ書きも内容は一貫しています。おかしな行動も、トッポジョージさんに憧れていたんだとしたら、不思議ではありません

あけ おかしくなつてないなら、あの行為は、仕返しじやないですか！兄の言う通り！

江崎 だからそれは憧れで

あけ 憧れでも、何が理由だつたとしても、それが何を引き起こすかわかるでしょう！おかしくなつてないんなら！恨んでたんですか？父は！私

達を！

江崎 :

あけ おかしくなつていたって言つて下さいよ！善悪とか何もわからないくらい、おかしくなつていたって…

江崎 どんな方だつたんですか？龍吉さんは、あけみさんの中では

あけ 最低の父ですよ。自分勝手で暴力的で、くすりとも笑わなくて…お金にもだらしがなくて…でも私を育ててくれたんです。体一つで。体を張ることしかできないから、危険な仕事を繰り返して。怪我をしたら何の保証もない。だからストレスを抱えて…お酒を飲んで暴れて…最後は

おかしくなつて…私は、父を許したいから、何年もかけて、理由を作りだしてきました！それなのに…いまさら…

江崎 : 龍吉さんの書いたメモです。読んで下さい

あけ いいです
江崎 どうぞ
あけ どうして?
江崎 もっと知つて下さい。龍吉さんのこと
あけ いやです。これ以上、私の中の父を崩さないで下さい
佐野 じゃあどうして来たんですか?
あけ え?
佐野 来なければ、知らずにすんだんでしょ? 来たってことは知りたかったんでしょ。お父さんのことを
あけ :
江崎 :
佐野 想像でどれだけ作り上げても、現実には勝てない。ここに、真実を探しにきたんでしょ?
あけ :
あけみは江崎の差し出したメモを手にする。

あけ 汚い字
江崎 :
あけ 学校のプリントとか、バイトの履歴書とか、こんな字でサイン書くんです。嫌だつた:
佐野 :
あけ 正常みたいですね
江崎 はい
あけ 読んで、どう思われました?
江崎 教養のある方だと思いました

あけ (笑う)意見があいませんね

江崎 龍吉さんは、許してほしかったんじやありませんか?

佐野 (憤慨して)江崎さん

あけ :そんな想像もできますか

江崎 はい

あけ 他にそう思われるかた、いらっしゃいます?

城戸が手を擧げる。

あけ いいご家庭に生まれたんですね

城戸 そうかもしません:

あけ :許してほしい、ってことは、父は悪かったと反省していた、ってことですか

城戸 はい

あけ じゃあ、あの奇行はどう説明されます?許しを求めている人間がさらに迷惑をかけている、気はふれていない、どうして?

江崎 :

葛西 龍吉さんは、その…気を配れる方でした?うちの父が…いや、私もですが、自分の思いが先にきちゃって、これが正しい、これをやりたいって思つたら周りが見えなくなるんです

あけ 少なくとも、気を配れるような人ではないです…

葛西 じゃあ、気がついてなかつたんじゃないですか?その…道で変なことをするとあけみさん達に迷惑がかかるつて…逆にもしかしたら、龍吉

さんなりに、一緒に暮らしていたときは、気を使って、やめてたのかもしれないし

あけ :あの人ならあるかもしれませんね。そうか。私たちが出て行つたら、迷惑にはならないって思つていたのか…

江崎 :

あけ もう少し、生きてるときに話したかったな…

江崎 ええ：

あけ 兄がね、言うんですよ。あいつに俺は、おまえが生まれたから不幸になつたんだって言われた。だから俺はあいつが死んだって許すものか
つて

佐野 ：

あけ 殆られる回数も、程度も、私とは比較にならなかつたし、言葉の暴力だつて。でも、許さないつて言つたつて、何も生まれませんよね

葛西 ：
あけ 私が会わせればよかつたのかな…会えれば、もしかしたら、許しあえたのかもしけないな…

アバ ：

あけ 父も、言いたい事があつたかもしませんよね。私達が全部知つたら、もしかしたら、わかりあえたのかも…

あけみはメモを見て、ふと手が止まる。

あけ これ、なんて書いてあるんですか？柿おとし？柿おとしは新たな出発。笑いは心の柿おとし…ジョージ
アバ ジョージ！もしかして、僕の知らない師匠の名言？

江崎 城戸、意味わかるか？

城戸 ：ああ、カキじやりません、柿落(こけらおと)しです。カキと違つて縦線がつながつてゐるでしょ
葛西 ほんとだ

あけ 柿おとしは新たな出発。笑いは心の柿おとし…どういう意味だらう？

城戸 劇場を作る時、最後に木のくずを舞台上から掃き落とすんですよ。その木のくずをこけら、行為を柿落しつて言つたんですよ。新しい出発と
きには、笑つて心を掃き清めないといけないっていう意味じやないですかね
アバ さつすが、師匠、よくわからないけど、深い言葉ですね

江崎 あけみさん
あけ はい

江崎 一つ、お伝えしたいことがあります

あけ なんでしょう？

江崎 私達が判断に困るものが、一つ見つかりまして

葛西 江崎さん！

江崎 見てもらつたほうがいい。全部知つてもうたほうがいい
葛西 でも、龍吉さんは

あけ なんですか？

江崎 遺言状が見つかったんです

あけ え？

江崎 そこに、少しショッキングなことが書いてありました。落ち着いて読んで下さい
あけ はい

江崎は金庫を開けると、封筒をそのままあけみに渡す。

あけみは中の文章を真剣なまなざしで読み始める。

緊張の面持ちで江崎達が見つめる中、あけみは読み終える。

江崎 どうでした？

あけ もう、笑うしかないです

江崎 ：

あけ なんですか、この「義弘やあけみに一億円は渡さない。すべて次女のよしみに与える」って

江崎 ：

あけ 次女のよしみって誰？何歳のときの子供よ？給食代すら払えないときがあったのに、他に子供がいたって？

江崎 ：

あけ しかも、義弘とあけみをたして、よしみつて：単細胞

江崎

：

あけみは、江崎達をぐるりと見渡す。そして、噴き出す。

あけ もしかして、信じてらっしゃるんですか？

江崎

え？

あけ こんな落書き、うそに決まってるじゃないですか

あけみは封筒を江崎に返す。

江崎 いや…でも、宝くじ

あけ 入ってたんですか？

江崎 え？あれ！

佐野 ないんですか？

アバ 宝くじってなんですか？なあ？

城戸 はい：なんのことですか？

アスパラと城戸は遺書の文面を読む。

江崎 葛西！

江崎 葛西 私、知りませんよ。さつき頂いた封筒をそのまま金庫に入れただけです。私じゃないです
なにがお前じゃないんだ！

葛西

•
•
•

葛西 江崎 出せ、葛西
葛西 江崎 …
二回目は見逃せない。こないだの通帳も、お前だつて見当はついてる

葛西は宝くじをポケットから取り出す。

江崎 なんでこんなことをしたんだ？

葛西：龍吉さんが、渡すなつて書いてる物を、渡すのが正しいとは思いません。こないだのおばあちゃんが、そうじやありませんか？ なんでもみんな、写真とか思い出じやなくて、通帳とかお金だとか…

江崎 俺達の仕事は、残された御遺族に、残されたものをお渡しすることだ。そこにこめられた思いも！でもな、それはやつちやいけないだろ！
あけ いいですよ、私達は。父が、渡したくないって言つてる物を受け取りたくはありません

江崎 しかし

そもそも、その宝くじ、当たってるんですか？ いつの宝くじです？（スマホを操作する）

葛西 こないだの年末ジャンボ宝くじです

全然違う

あけ そういうことです

江崎 一

あい
夕が...和達を懐んでいた
といふことはしれぬんれかといふ
た

あけ
じやあ、帰ります。兄には、来たとは言わないで下さい。あと、よろしくお願ひします

江崎 あけみさん！この遺書は、ゴミの中から見つかったんです。だから、龍吉さんも書いてみて、やっぱり違うと思って捨てたのかもしれません。

ア
バ
：

•

父

二

あ
い

あ
い

ん。それを私達が拾い出してしまったんです

あけ もういいです

アバ あの、僕、全く見当はずれかもしませんけど、言つてもいいですか？

江崎 黙つてろ

アバ はい。つて、なんでやねん！

江崎 いや、すみません。スベリましたけど…あけみさん

あけ はい

アバ 笑つたらどうですか？

あけ はい？

アバ 笑いは、心の柿落しですよ。こんなこと、僕が言つたらだめなのかも知れないけど。めちゃくちや面白いですよ、龍吉さん。トッポジョージ師匠が好きで、還暦すぎてからその物まねを初めて、この宝くじだって、プロのボケですよ

あけ ：

アバ さつきあけみさん笑つてたじやないですか！嘘だつて言つて笑つてたじやないですか！

あけ ：

アバ 師匠と知り合いだつた人からのまた聞きなんですけど。師匠、戦争でご両親亡くして、本当にひどい所で育つたらしいです。蛍の墓みた
いな感じかなつて僕は勝手に思つてゐんですけど。色んなところでいじめられたり、嫌味言われたりして、でも師匠、一度も言ひ返さなかつた
らしいです。言い返す代わりに全部、笑いで返したんです。どれだけスベつても、バカだと言われても、ひたすらボケ続けたんです。そしたら
いつのまにか誰も怒らなくなつたらしいんです。だから…僕は…龍吉さんも、同じだつたんじやないかなつて思うんです。あけみさんとかお兄
さんに悪い事をやつたのは十分わかつていていたと思うんです。でも、不器用な人だから、謝れなくて、本人も困つてたんじやないかなつて。全部
僕の想像です。でもこんな素敵なボケができる人が、悪い人だなんて思いたくないんです

あけ 無理ですよ…

アバ 最後、ちょっとだけ！見てつて下さい！ショートコントやと思つて！お願ひします

あけ

：

アバ ショートコント、遺言状。おい、親父！なんだよ！(あけみに)あ、これお兄さんです

あけ

アバ 遺書書いたって？なんだよ、遺産なんてあるのかよ？

アスパラは遺書を手にする。

アバ はあ：一億円！一億つて、ほんとかよ？おい、あけみ

葛西 (戸惑うが)…え、ええ？

アバ

親父の奴、一億、宝くじで当てたつて…え、なに？誰だよ、よしみつて。あ？そいつか(城戸を見る)？

城戸

えつ！…あ…はい…よしみです

アバ

どういうことだよ、親父！俺に一億渡せないってどういうことだよ！

江崎 …そのまんまだよ。お前らに渡す金はない…

アバ

あけみ！おやじ、一億当てたのにその女に全額やるつて！お前もなんか言えよ！

葛西

(気にして)仕方ないわよ…私達が、お父さんから離れたんだから…

アバ

出てつたのはこの親父のせいだろ！俺が全部悪いみたいに言いやがつてよ！どこだよ、おやじ、俺に渡せよ！

江崎は黙つて宝くじをアスパラに差し出す。アスパラは宝くじを奪うと得意げに見せびらかす。

アバ おい、あけみ、やつたぞ！一億だ！一億！

江崎 義弘：

アバ なんだよ、親父

江崎 その宝くじ、外れですよー！この子も娘じゃありません！

アスパラは激しくずつこける。

江崎 いつも、いつも、ごめんなさい！

アバ なんだよ、それ…ふふふ、ははは、ははは！

アスパラの笑い声に江崎の笑い声が重なる。

江崎 どうだ、ひつかかったか

アバ ばつかじやねえの？こんな嘘、ひつかかるわけねえだろ。乗ってやつたんだよ

江崎 いつも、いつも、ありがとう

アバ いーかげんにしろよ、バカ親父

江崎 いつも、いつも、ありがとう…

アバ しつこいよ

江崎 いつも、いつも、ありがとう。わしの息子でいてくれて、ありがとう。わしの娘でいてくれて、ありがとう

アスパラと葛西は、あけみの顔を見る。

あけ …今までのこと、謝るのが先でしょ？お父さん？

江崎 (ふざけて)いつも、いつも、ごめんなさい！

あけ …バカ

あけみは少し笑う。

あけ こんな父だったら、私達、仲良く暮らしたかもしれませんね。夢を見させてくれて、ありがとうございました
江崎 これが真実じゃ、ダメなんですか？

あけ 他人は好きに言えますよ！自分のことじゃないんだから！でも家族は…あの人は家族なんだから！私は、何回も信じて、裏切られて
アバ ジやあ、これ、見て下さい！カセットとビデオ、ジョージ師匠のネタ見たらわかることがあるかもしれません。家族だからこそわかる何かが、
あけみさんには見えるかもしれません

あけ いいです。どうせ見られませんから。ビデオも、カセットも

アバ じゃあ、うちにある機械、お貸ししますから

あけ どうしてそこまでして

佐野 アスパラ、そのカセット、中身入ってるか？

アバ え？入ってるよ

佐野 じゃあここ(ラジカセ)に入ってるのは？

アバ あ…ほんとうだ

アスパラはケースを確認するとラジカセを覗き込む。

アバ 私のお父さん…？

あけ え…？

アバ 書いてますよね？私のお父さん、つて龍吉さんの字で

あけ はい：

江崎 わかるんですか？

あけ 私が、作文で賞をもらったときのタイトルです。これ、ラジオに出たときの録音だ。絶対そうです…どうしてここに

佐野 最初に見たときスイッチが入つてました。火事のときも聞いてたんだと思います

あけ どうして聞いてたんですか？偶然？それとも毎晩？

江崎 :

あけ どんなこと書いたんだろう…ほとんど覚えてない…お父さんを尊敬してます、みたいな内容だったかな…お父さん…寂しかったの？本当は謝りたかったの？

全員 :

あけ ビデオとカセット、貸して頂けますか？なるべく早く、お返ししますから

アバ いえ、いつまでも持つていて下さい。あるべき場所にお渡ししていくのが僕たちの仕事ですから

あけ ありがとうございます

アバ 見る機械が手に入らなかつたらお貸しますんで。言つてくださいね

アスパラはあけみにカセットとビデオを手渡す。

あけ ありがとうございます。このラジカセも、捨てられちゃうんですか？

江崎 お兄さんが必要ないとおっしゃつたら

あけ じゃあ、持つて帰ります…お邪魔しました

あけみは部屋を出て行く。

江崎 龍吉さん、よろこんでくれたのかな？

全員 :

城戸 よろこんでると思います

江崎 まったく、お前は育ちがいいねえ(笑う)

葛西 江崎さん…

江崎 手癖の悪い部下を持つて、俺は不幸だよ。しかも持つて行くのはゴミばかり

葛西 すみません

アバ 葛西さん、スマイルですよ、スマイル

葛西 :

江崎 そうだ、この仕事が終わるまでは笑つとけ。命令だ

葛西 :

江崎 (笑つて)龍吉さんをこれ以上すべらすわけにはいかないだろ?宝くじ一枚買って、封筒につめて遺書を書いて死ぬ:一世一代の大ボケがすべつたんだ。このままじゃ寂しすぎるだろ。だからさ、俺らは笑つてあげようじゃないか。笑顔で送り出してやろうじゃないか!

城戸 はい!

江崎 じゃあ、全員で衣装にとつかかるか!

江崎は立ち上がって部屋を出て行く。佐野以外の全員があとに続く。外から笑い声が聞こえる。

佐野 ただの自己満足:

間

佐野はパラパラとアルバムを見る。

佐野 親、か:

佐野はふと顔をあげるが、すぐにハツとして部屋を出て行く。

『わたしのおとうさん』の音声が流れる。

ラジオ わたしのおとうさん。きしたま小学校二年三組斎藤あけみ。わたしのおとうさんは大工さんです。家族のために、いつも高い所でお仕事をしています。こわくないと聞いたら、こちとら江戸っ子でいと怒られます。いつもこわい顔をしていますが、お酒を飲むとガハハと大きな声で笑います。悪い事をすると、げんこつで叩かれます。お兄ちゃんはお父さんをかっこいいと言っています。お兄ちゃんは大きくなつたら大工さんになりたいと言っています。私は女だから大工さんのお嫁さんになりたいです。お父さんみみたいにかっこいい大工さんがいいです。お母さんに、どうしたらお父さんみたいな人と結婚できるのと聞いたら、フフフと笑います。私もお母さんもお兄ちゃんもお父さんが大好きです。いつもいつもありがとうございます、お父さん

了